

事業の目的は「**利**」に、資本所有者の投資に対して適切な見返り（リターン）を生み出すことにある。単純なモデルでいうなら、短期的には所有者へのキャッシュフロー、長期的には投資先企業の資産価値の増加がリターンといえども、企業の成功は、投資に対するリターン状況によって測定される。

持続可能な発展のための原則は、持続可能性についての三つの柱の幸福度の評価に基づいている。3本柱とは①地球の幸福②人類の幸福③経済の幸福——つまり地球、人類そして利益である。成功が評価

日本への期待 世界各地から

9

84

地球と人類、経済の幸福のために

されるとき、これらの柱は相互に絡み合っており、一つの柱が成功していくと全般的な成功にはならない。持続可能な発展の基本原則では、一つの柱での成功が他の柱の弱体化に結びついてはならないとする。

よつて持続可能な事業環境下においては、成功の定義が以前よりもむるかに複雑になつている。地球と人類の幸福に対する影響評価がまだ確立されていないため、成功に達する困難さは強まつてゐる。投資収益率(ROI)という

フィンランドから(上)

企業にとって基本的使命に關する価値を軽視する一方、新しいことを推進しなとする情熱は、企業が三つのすべての柱で同時に成功することを困難にしている。

このようないくつかの成功の定義に関する困難さは、事業に関する意志決定を複雑にさせ、経営幹部が明確な長期目標と指標を設定する際の課題ともなっている。職業的専門家としての経営コンサルタントの重要な仕事は、成功した先駆者であり続けながら、企業の競争力強化を支援することである。

経営コンサルタントの基本的なスキルは、事業をまず全般的に理解し、そして異なる立した領域だけに深い専門知識を持つだけではいけない。ある。もはや経営コンサルタントは、事業のある特定で専門知識を持つだけではいけない。企業、所有者、取締役会、経営幹部あるいは社員の支援に携わる者は、私たちのアドバイスが企業の将来の成功に及ぼす全般的な影響を見極める必要がある。

成功の評価は、持続可能な
発展の三つの柱に基づいて行
われる。企業が依然として可
能なかぎり最高の事業成果を
上げる必要があるのは、至極
自然なことである。だからと
いつて、地球や人類の幸福を
損なつてはならないことでは
ない。持続可能な発展の重
要な宣言のひとつは「著しい
害のないこと」である。つまり、
他の柱を弱体化させではなく
ら、その幸福を破壊することじ
ごとく、地球や人
類の幸福を求める

一利益は遺漏された言葉で
なく、逆に財務的に成功し
た企業だけが、持続可能な基
盤上で事業を営み、持続可能
な総合的な成功を得ることが
できる。持続可能な発展の原
則は、新たな事業モデル、事
業領域、業務を開発・拡大す
る多数の機会を創造する。そ
のためには、これまでの考え方
や慣習から一歩踏み出す能
力が必要である。

【キム・カルメ、リーム中
産連】

ことはしてはならないといえる。同時に、地球や人類の幸福の追求は、企業の利益を減らすことになつてもならない。